

くさしぎ便り No.6

くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2013年10月発行 e-mail kusasigi@nifty.com
「辻よし子と歩む会」ホームページ http://www.geocities.jp/yt_ayumukai/index.html

「くさしぎ便り」第6号をお届けします。

今回は性同一性障害者の石塚将輝さんのお話を伺いました。

「あきる野っぱら 学びの場 その6」 ご報告

9月16日あきる野ルピアにて開催

本当の自分を取り戻すために

話題提供者 石塚 将輝さん

いしづか まさきさんプロフィール
1951年生まれ。自身の性同一性障害に、
長い間苦しんできた。50歳の時にカミングアウト。
以後、男性として生きている。
「G D西多摩」を立ち上げ、同じように性同一性
障害で悩む人たちの支援活動や、性同一性障害者が
普通に生きられるよう、各方面に提言をしている。



女の子？男の子？ マイストーリー

私は昭和26年に“女の子”として生まれました。私が自分の性に違和感を覚えた最初の記憶は、小学校に上がるからと赤いランドセルを与えられた時でした。でもそういう違和感は口にはしてはいけなかったと思っていました。

中学生になると男子は学ラン(学生服)、女子はセーラー服・箱ヒダスカートの制服が決められていましたが、ここでもなぜ自分は学ランを着てはいけなかったのかという思いになりました。中学で初めて好きになった相手も女

の子でした。普通の子供達が、好きな男子の話で盛りあがっている中で、そういう思いは口にできず、複雑で孤独な気持ちでした。

「自分はいったい何者だろう？レズビアンだろうか」と思い悩み、それも違うようだと答えが得られないまま、自問自答を重ねていました。とても不安でつらい日々でしたが、当時は相談できる人がいませんでした。

結婚したのも、また息子を出産したのも、自分が女性であることを確かめて、自身の性への違和感から解放されたいという思いがあ

ったからです。でも、そうした経験を経ても、性への疑問を消すことができませんでした。

やがて、「性同一性障害」が社会で認知され始めた時、インターネットで検索すると、そこに書かれていることのすべてが自分に当てはまりました。さっそく病院で診察を受け、自分が性同一性障害者と分かりました。長年悩んできた、自分の性に対する疑問によく答えを見つけることができた思いでした。

心に身体を合わせるために、手術をすることもできますが、手術は身体に負担が大きく命を縮めるとも言われ、私は“身体は女性のままで男性として生きる”ことを選びました。

そして息子が20歳になった時、家族に自分が性同一性障害者であることを伝え、これからは男性として生きたいと話しました。息子は「20歳まで育ててもらったのだから、これからは好きに生きたらいいよ」と言ってくれました。また、夫にも「一軒の家に男は二人要らない。これからは別々の道を歩みませんか」と提案して、離婚を承諾してもらいました。息子も夫も、それからの方がよい関係を保っています。

私自身もカミングアウト（これまで公にしていなかった自らの出生や病状、性的指向等を表明すること）してからのほうが、幸せに暮らせています。今は「G I D（Gender Identity Disorder...性同一障害者）西多摩」を立ち上げ、性同一性障害に悩む人の個別相談に応じたり、性同一性障害者が普通に生活できるような社会になるよう、講演会を開いたり市などに提言や要請をしています。

「GID西多摩」のホームページ

<http://plaza.rakuten.co.jp/gidnisitama/>

性同一性障害者が普通に暮らせるためには?!



性同一性障害者が普通の生活を営めるよう、早急に改善してほしい要望はつぎの7点です。

➡市の申請書類の不要な性別記入欄の見直し。

性同一性障害者にとって、性別記入はかなり苦しいことです。市役所の申請書類には必ずと言っていいほど「男・女」と記された欄があって、どちらかに をつけるようになっています。私は「・」に をつけたりしてきましたが、性別記入が不要な書類は性別欄を見直し、削除してもらいたいと思います。

この件である野市役所に出向き、お願いしたところ、「性同一性障害」という言葉は知っていたが、生身の当事者を見るのは初めてと言われ、認知度の低さを改めて感じました。

➡公共施設の利用ができるように。

たとえば、「瀬音の湯」。性同一性障害者は貸切風呂を利用することになりますが、入浴後そのまま館内で休んで、それから着替えようとすると、貸切風呂の更衣室は次の客が利用しており、男湯か女湯の更衣室を利用せざるを得なくなるということがあります。そうした場合、私のように、女性の身体のまま男性として生きていると、どちらの更衣室にもいけず、結局は入浴自体をあきらめるとなります。プールや体育館の更衣室も、間仕切り一つでよいので設けて、個別に利用できるスペースを作ってほしいと市に要望しています。

➡医療機関の診察時に可能な限りの配慮を。

医療機関では本名で受診するので、たとえば、診察の順番が来て名前が呼ばれる時など、男性の外見とそぐわなくて注目されてしまう

ことがあります。私は診察時に事情を告げて、呼び出しは名字のみでお願いしています。そうするとファイルに「名字のみ」というメモを挟んでくれる医療機関もあります。

入院は個室希望ですが、個室代がかかるのは困ります。ましてや自分の意思を伝えられない状況で病院に運び込まれ、男女どちらかの病棟に入れられたらと考えると、不安で眠れなくなります。私たちはおちおち病気もできないという緊張感と隣り合わせで生活しているのです。国や地方自治体は、そうした性同一性障害者が、医療機関に受診した場合の対応の指針を作成してほしいと思います。

➤アパートなどを借りやすくしてほしい。

女性がホルモン治療をすると、だんだんと外見が男性的になっていきます。が、そうになると大家から女性に貸したはずだと追い出されることがあります。安心して住める場の確保は、自分を確立するのに必要です。当事者がアパートを借りやすくするにはどうしたらいいか、今、模索しています。

☑各自治体に専用の相談窓口を。



学校でも家でも、自分の性に対する違和感を口にできない人が相談できる“性同一障害に特化した相談窓口”を市役所に作ってほしいと思います。市民には様々な課題を抱えた人がおり、そういう人たちがいろいろな要求を市に出していくことが開かれた市政を作るのではないかと思います。

◆教諭や養護教諭向けの学習会の設定を。

日本の医療機関の受診実績からいうと、性同一性障害を持った人の割合は、身体が男性で心は女性という人が1万人に1人、逆は3万人に1人の割合です。が、濃淡はあります

が潜在的には30人クラスに1人は、自分の性に対して違和感を持つ子だといわれています。

そうした子への適切な対応を担任なり養護教諭が知らないために、教師も悩み、その子にもつらい思いをさせてしまうことが往々にしてあります。教員向けの学習会を早急に開くよう、市の教育委員会に提案したところ、市は人権教育の一環として性同一性障害についても学んでいると回答してきました。人権教育の一環では、具体的な対処法等学べず不十分です。早い段階で当事者の子に対応するには、入学してから学ぶのでは遅いのです。

◆各都道府県に専門医療機関を。

性同一性障害に手術やホルモン療法も含めて、治療対応できる病院が全国で6つしかありません。近くに専門医療機関がない人は遠くの医療機関に交通費をかけて行くか、違和感を抱えたまま生きていかなければなりません。せめて各都道府県にひとつの医療機関を設置してほしいと思います。

少数者が生きやすい社会は、そうでない人も生きやすい社会だと思います。そう思っている人と手をつないで大きなうねりにしていきたいと願っています。(了)



石塚さんの話に耳を傾ける参加者

「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」の紹介

「くさしぎ」は鳥の名前ですが、「草の根市議」という意味も込め、会の名前としました。2011年の福島原発事故以後、多くの気づきがありました。その中で「今まで私たち市民は、あまりにも政治家に政治をお任せにしてきたのではないか」という苦い反省もその一つです。「くさしぎ」はこの反省に立ち、もっとも身近な市政に、私たちの代表の「草の根市議」を誕生させ、その市議とともに市政に主体的に関わろうと呼びかける、あきる野市民の会です。

2011年11月からこうした趣旨に基づき、西多摩地区の草の根市議に話を聞いたり、どういう市議が望ましいか等話し合いを重ねてきました。その結果、市民代表としての「草の根市議」は次のような要件を持つのではないかとイメージがまとまりました。

- 市民といっしょに市政を考える。 市の現状と問題点を市民に情報発信する。
- 開発優先ではなく、環境優先(放射能への危機感を持つ)。
- マイノリティの視点をすくいあげる。

以上のような要件を満たす市議を市議会に送り、ともに市の課題を考え、ともに解決していく良き伴走者となりたいと考えています。あきる野市を今以上に暮らしやすい「マイタウン」にできるよう、多くの市民が「くさしぎ」の活動に参加して下さる事を期待しています。

～つながりましょう～

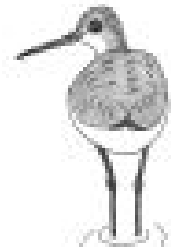
(^_^) 「くさしぎ」メンバー募集中 (*^_^*)

「あきる野のごみが気になる」「放射能は大丈夫?」「市の財政はどうなってるの」なんて市政に少しでも興味がわいた方、「くさしぎ便り」を今後も読みたい方、「くさしぎ」のメンバーになりませんか? ひとりの市民として楽しく市政に関わりましょう。

連絡先 ・ e-mail kusasigi@nifty.com

・ 〒190-0154 あきる野市高尾 182-1

&Fax 042-596-4569(佐橋)



．． くさしぎニュース ．．

第7回あきる野っぱら 学びの場 「三内川を歩く」

2013年11月25日(月)10時武蔵五日市駅改札口集合

「あきる野っぱら 学びの場」初のフィールドワークです。世界にわずか千羽しか残っていないミゾゴイが繁殖している三内川で、今砂防工事が行われています。その影響で、下流に住んでいたミゾゴイの巣が無くなってしまいました。三内川の周辺を歩きながら、砂防工事の実際を見えます。参加希望者はご連絡ください。